

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 シルバーハウス寿楽

ユニット名 寿楽

自己評価実施年月日 平成 20年10月初めから末にかけて

記録者氏名 寺川 美智代

記録年月日 平成 20年 10月 28日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域に自然に溶け込んだグループホームでありたいという願いでもあり、散歩を日課にしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	新しい職員にも、理念の成り立ちや経緯を伝えている。そうする事で、古い職員も振り返りをする事が出来ている。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	商店街へ出掛けるの買い物、地域の美容院を利用、お米屋さん、牛乳や豆腐などの定期的な配達をして頂いている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中でも、高齢者の病気について学び合える機会を作っている。又、在宅介護での悩みなどに対して、私達の出来る範囲で役立たせてもらっている。	○	民生委員を介してもっと地域の方の参加が増えるように、働きかけていきたい。内容をもっと充実させたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	良すぎる評価を頂いた事で、その評価に甘んじる事無く、常に振り返りながら当たり前の暮らしに向けて、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席して下さった御家族の方々や、地域の方々の思いを汲み取る場として、又、職員の思いも率直に伝える場として、活かされた取り組みが出来ている。内容も少しずつ充実していきつつある。	○	事故報告、ヒヤリハットに関する事なども報告させてもらっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に行き来する機会は持てなかったが、不明な点、相談したい事などは、その都度連絡を取り、より良い支援に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	なるべく多くの職員が、学ぶ機会を持てるようにしている。その学びを入居者の方に返していけるよう、チーム間で話し合いを持っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないと、職員ひとりひとりが認識出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族の不安、疑問点にも納得出来るよう説明と同時に、寿楽の入居者の方に対する思い、支援の説明も行い、ご理解・納得を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の特性がある為、その都度状況にあった問いかけや意見、不満の声を聞けるよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の暮らしを書いた文章を送らせて頂いたり、来訪時には暮らしぶりや健康状況を報告している。	○ 金銭出納帳にサインを貰っている。家族会では、入居者の入退居、職員の異動、事故報告、暮らしなどを報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「暮らしの便り」の後に、必ず苦情受け付け機関の場所、電話番号を書き添え、外部者へ表せる機会を設けている。日頃より、家族が話しやすい関係作りに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞けるよう、常に日頃から信頼関係に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた勤務調整が行われている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく馴染みの関係に努めているが、やむを得ない離職、異動があったが、利用者へのダメージを防ぐ配慮に、チームで努めてきた。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、出来るだけ研修に参加出来るようにしている。又、日々の関わりの中で寿楽で大事にしてきた事を、伝えている。又、そうする事で古い職員も振り返りが出来ている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、地域のグループホーム職員間の学習会も定着。参加グループホームも増えてきている。「学ぶ機会がなかった。こんな会へ参加出来るようになって、嬉しい」の声を頂いている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士支え合い、仲間として助け合いながら乗り越えている。又、食事会などを設け、親睦を図っている。	○	食事会などの場を、もう少し増やしたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、私達が理念の具現化に向けて努力している事に対して、理解があり協力体制がある。又、私達も「ただ仕事をして、一日が終わった」という職員にならないよう、日頃の関わりの中で努力してきた事が、結果に繋がった時、「嬉しい！」と思える職員で居続けたいと思っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに見学に来て頂き、どんな所か雰囲気を感じてもらう事になっている。その中で本人の声や思いが出しやすいように心掛け、受け止める努力をしている。入居に関しては、特に本人の気持ちを大事にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一度の説明では、十分把握してもらえないと思う時は、機会を重ねるなどして、不安な事、求めている事を受け止める努力をしている。	○ 本人の不安、家族の不安を受け止める為に、試し期間として2週間程度利用してもらい、それによって入居を決めるという方法をとった方もおられた。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の置かれている状況を把握出来た時点で、より良い支援の具体的方法や社会資源を紹介する対応もとっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始に到っては、いきなりするのではなく、以前の暮らし振りを把握した上で、徐々に馴染めるよう御家族と相談、協力も頂きながら取り組んでいる。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	目線は常に同じという事を心掛けている。目線が上になってしまうと、支え合う関係ではなく、お世話する側に立ってしまう。	○ 言葉遣いは特に気をつけるようにしている。新しい職員から気になる言葉が耳に入る時は、その都度気づいてもらうようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族に相談を行い、常に連絡をとっている。又、出来る範囲で協力を得ながら、一緒に本人を支えていく関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	寿楽においでで下さるごとに、日頃の様子を報告、特に嬉しいと思う事をお伝えする事で、家族の方も喜び、又、安心されている。本人と家族の関係が、より良いものへと支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてくられた馴染みの方も、気軽においでしてくれている。その方々の訪問が、今後も途切れないよう努めていきたい。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、よい関係でおれるよう常に配慮している。一人一人の個性、状態を考慮し、お互いが落ち着いておれるような居場所作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も、入院先を見舞ったり、又、退居された方の家族も寿楽にボランティアに来て下さるなど、関係が続いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉で表せない方が、何を望んでいるか、どんな支援が必要かを常にチームで気づきを出し合い、その方にとって過不足のない支援について話し合いを重ねている。又、機会ある事に職員は勉強会へ参加し、スキルアップに繋げている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接から得ていく情報もあるが、暮らしの中で本人と関わりを持っていくうちに、段々に把握出来ていく事も多い。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人にきちんと向き合い、現在の心身の状態や、その方の出来る事、出来ない事などを総合的に捉えるよう努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日頃から本人が口にする言葉や行動を、メッセージとして受け止めて、職員がどう関わるべきかを話し合い、介護計画に繋げている。	○ 週1回、曜日を決めて合同の介護計画を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間でなくてもその都度、必要に応じて見直し、対応に努めている。	○ きちんとした記録作成として残していくという事が、十分でなかった。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃より、職員の「気づき」を大事にし、個人記録に記入するようにして、情報の共有化に努め、介護計画の見直しに活かしている。	○	個人記録用紙の右欄に記録者の気づきを書き込めるようにしているが、新しい職員は、まだそれを十分活用出来ていない。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望に出来るだけ添った柔軟な対応を心掛けている。	○	初めて入居される方に、強い混乱が予想される時や、共同生活に馴染めるかなどの不安が強い時は、お試しの入居期間を提供している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの方々には、温かい支援を頂いている。又、防災に関して消防署員の方より、アドバイス、協力を頂いている。社協よりボランティアの紹介も頂いている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回 ギターと共に歌おう会</li> <li>・毎月1回 書道に親しむ会</li> <li>・退居された家族の方による、散歩など楽しい時間を作って下さる。</li> </ul>
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、他のケアマネジャーや相談員と話し合いを重ねる事も多い。又、他のグループホームとの学習会を持ち、情報交換を行っている。	○	2ヶ月に1回のグループホーム親交会でも、話し合いの場を設けている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、包括支援センターの方が参加して下さい、寿楽での暮らしを見て頂き、理解を深めて下さった。又、その中でアドバイスを頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	必要に応じて訪問、電話などで相談に応じている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	新しい職員にも指導していく中で、常に古い職員も振り返りが大事だと思っている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	つい職員は口出し、手出しをしてしまいそうになり、じっと待つ事の難しさも感じている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	本人が行きつけの美容院へ行けている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	出来るだけ入りたい時間に添えるように、3時間～4時間の入浴時間をとっている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	昼食後、30～1時間程の午睡を勧めている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板回し</li> <li>・包丁砥ぎ</li> </ul>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を楽しみ、自分から支払う事が出来るよう支援に努めているが、認知症の方にとって買い物をしてお金を支払うという手続きが、難しいという事も職員は認識している。	○	地域の米屋さん、魚屋さんの配達時には、支払いをしてもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ一日一回は外への支援をしている。高齢の為の体力、下肢筋力の低下に伴い以前の距離は無理になってきている方もいるが、その方に合った距離の散歩を支援している。	○	夏の暑さが厳しい時は、外出を控えた。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花を楽しんでもらうドライブや外食、電車に乗っての日帰り旅行、一泊旅行などを家族の協力を頂きながら、楽しんでもらっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使えるように目に入りやすい所に置いている。自分でかけられない方には、職員が代わってかけるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に寄って頂けるよう、くぐり戸は開放し、又、玄関まわりを常に明るくするなどの配慮をしている。	○	冷暖房の必要でない時は、戸はいつも開けている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、禁止の対象となる具体的な行為についても職員間で学習している。	○	入居前には、抗精神薬を服用されていた方も、日々の様子を見せて頂き、家族・本人・かかりつけ医と相談しながら、徐々に減少。1週間から3ヶ月以内で服用中止となり、皆さん普通の暮らしをされている。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包丁は使用后、即収納する。</li> <li>・針は数を確認して、針刺しへ戻す。</li> <li>・手洗い洗剤は、就寝後に目の届かない所へ収納している。</li> </ul>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	○	<p>砥石で包丁を研ぎながら、切れ味を手で確かめながら納得いくまでされている方→自信へと繋げている。</p>
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>薬の変更があった時は、10日間程バイタルチェックをするなど、経過観察をしている。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	<p>歯ブラシセットを食堂から出た時に、目に入る場所に置いている。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>水分をとりたがらない方には、飲み物を変えてみたり、個別の対応をしてこまめに飲んでもらう工夫をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外から入ってくる時には、必ず手洗いとうがいが定着してきた。又、家族、来訪者の方々にも定着しつつある。感染症に対する予防、対応にも実行している。感染症流行の季節には、生物は控える配慮をしている。	○	玄関の足元に、手洗いとうがいをお願いする紙を置かせて頂いている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は一度使用したものは、ハイター消毒する事を徹底している。食材は日付確認し、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。調理した物は、食べきれぬ量を作るようにして、後へ残さないようにしている。	○	雨の日などの布巾の乾燥には、アイロンを使っての乾燥を実行する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、草花を植える。緑や花を絶やさないようにしている。南玄関は、常に開放してベンチなどを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、トイレ、洗面所などに、緑や花を絶やさないように心掛けている。不快な音や光にも配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西日の差し込みが強くなると、カーテンを引く。</li> <li>・入居者の部屋の前の中庭には、花や野菜などを植え、楽しめるような工夫をしている。</li> </ul>
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よい仲間作りの場所として、又、独りになりたい方への場所作りなど、居場所作りの工夫をしている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間やホールに、又、庭等にテーブルや椅子を置く事で、思い思いに自由に過ごさせている。</li> </ul>



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの家具、置物、絵などを持っ て来てもらうようお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	数箇所に温度計を置き、外気温と大きな差が ないよう配慮している。又、エアコンを使用 時には、こまめに換気にも努めている。	○	エアコン使用時には、時間を決めて1階、2階 同時に換気を行っている。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の状況に合わせて手摺りを廊下、トイ レ、浴室、玄関、居室入口などにつけてい る。照明には配慮し昼間でも明るさが必要 な所には、電気をつけるなど考慮してい る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人のわかる力を活かし、トイレが分 かりやすい物を入口に掛けたり、張り紙 などをする工夫をしている。又、居室入 口には、のれんやマスコット人形を吊る すなど、その方が分かりやすい工夫も必 要に応じてしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外周りの花壇や庭、又、中庭には野 菜や花を植え利用者に楽しんでもらっ ている。野菜の収穫も入居者の楽しみと なっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ずっと大事にしている事があります。ゆっくり、ゆっくり、ゆっくりとを理念とし、いつも一緒にという気持ちでやってきました。又、自分の思いを言葉で表現する事が難しくなっていく方の心の訴えをキャッチし、その方が安心して暮らしていけるように、お手伝いが出来ればとチームで頑張っています。